

3月24日は世界結核デー

3月24日は世界結核デーです。1882年3月24日に細菌学者ロベルト・コッホが結核菌の発見を発表した日にちなみ、1997年の世界保健総会で制定されました。

結核は、HIV／エイズ、マラリアと並ぶ世界三大感染症です。日本では過去の病気と思われがちですが、2023年には世界で1,080万人の方が発病し、その内125万人の方が亡くなっている病気です。感染症としては、ここ数年死因の第1位だった新型コロナウイルスを抜いて、2023年に結核が死因の第1位となっています。日本は長年の努力の結果、2021年から「結核低まん延国」（人口10万人あたりの新規登録患者数が10未満である国）となりましたが、欧米各国と比べれば結核の罹患率は未だ高く、今でも年間1万人以上が発病、1,500人以上の方が命を落としています。WHO（世界保健機関）が2015年からビジョンとして掲げている「ゼロ結核」への道のりはまだ遠いと言わざるを得ません。

世界結核デーの今年のテーマは “Yes! We Can End TB: Commit, Invest, Deliver” 「私たちなら結核を終息できる！コミットしよう、投資しよう、届けよう」であり、結核終息に向けて資金を投じて取り組みをより一層加速していくことを呼びかけています。持続可能な開発目標（SDGs）では、2030年までに結核を根絶することが目標として掲げられており、結核流行の終息に向けて、WHO等の国際機関において様々な取り組みが行われています。公益社団法人日本WHOによると、結核対策への世界的な取り組みにより、2000年以降、推定7,900万人の命が救われたといわれています。

当社は結核治療薬の一つであるピラジミナドの中間体であるシアノピラジンを35年以上にわたり製造、供給しています。当社のシアノピラジンのシェアは世界トップであり、今後も安定供給に努め、結核流行の終息に貢献してまいります。



以上